第 80 回学術分科会における主な意見
（情報科学技術関係）

○ 学術全体の情報基盤の話を情報科学という形で切り出して入れるのか、共通の提言の項目のようなところに入れるのか、両提言の組み合わせ方について、しっかり検討するべき。

○ 大学・大学共同利用機関のリモート化については、既に国も動いているところであるため、どういう分野にどのくらいさらに厚く支援を行うべきかと言う点をブレークダウンして具体的に書き下す必要がある。

○ 産学連携のデータや府省連携で出てくるデータについて、その活用・維持をどう行っていくのかが課題。SINET の充実だけでは不十分である可能性があり、もっと踏み込んだデータの活用・維持の在り方について、国としてサステイナブルな形を考えていく必要がある。

○ SINET は科学技術・学術の動脈であるが、その予算は国立大学法人運営費交付金の大規模学術フロンティア促進事業に位置付けられており、数年に一度、学術研究の大型プロジェクトに関する基本構想ロードマップに至るまでの競争にさらされていると認識。万一、予算を取れないようなことがあると、国内の研究活動が心筋梗塞を起こしてしまう。国策でやるべきものとして位置付けてはどうか。

○ 人文・社会科学も含め、サイエンスがデータ駆動になってきており、これまでと違い、支配方程式がなくコンピュータで解けないものについても考えていく必要がある。そのためにはデータのインフラが必須であり、2022 年度からの SINET においては、データの保有権等のガバナンスも考慮し、人文社会系も含めたデータインフラが重要になってくる。

○ SINET を日本全体の社会基盤インフラとして拡充・活用することを提言すべき。SINET により各地の大学及び研究機関、また小中高に接続したデジタル神経網を構築し、様々なデータのリアルタイムでの利活用を先進的に行える環境を整備することが重要。また、併せて、SINET の構築・運用を担う NII の体制強化の検討が必要。

以上